HOTeye

ホットアイ

心と心のかよいあう福祉の情報誌

2009
冬
Vol.62

ホットな心で包むくらし。

（社）鳥取県中部医師会立三朝温泉病院内

鳥取県中部圏域 地域リハビリテーション支援センター

全国的に地域リハビリテーション活動が展開される中、
鳥取県では「地域リハビリテーション推進」事業として
医療と福祉をつなぐネットワークづくりを重点的に行っています。
その活動の拠点として鳥取県においても、
地域におけるリハビリテーションを推進するため、
二次医療圏域ごとに「圏域地域リハビリテーション支援センター」を設置しています。
従来の技術指導型の事業から、
「"まちづくり的"地域リハビリテーション」へと移行した中で、
顕著な活動でネットワークづくりに取り組んでいる
中部圏域地域リハビリテーション支援センター
（三朝温泉病院）の活動を追いました。

「地域リハビリテーション」とは、障がいのある人や高齢者およびその家族が、住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、一生安全にいきいきとした生活が送れるよう、医療や保健、福祉および生活に関わるあらゆる人々や機関、組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行うすべての活動のことを言います。（日本リハビリテーション病院・施設協会／2001年）

鳥取県中部圏域 地域リハビリテーション支援センター

地域リハビリテーションの推進は、戦略が重要となり、「顔の見える関係づくり」から理解を深め、より具体的に、かつ地道に、医療・福祉関係者や地域住民と連携を構築していくこと。

リハビリテーションと言えば、病院での「機能回復訓練」をイメージされがちですが、本来の意味は「権利・名誉・資格の回復」であり、「持っている能力を最大限に引き出し、日常生活の活動を高め、家庭や社会への参加を促すこと」を指します。

第5弾「地域づくりしょいやの会」には約100名の参加者が集まった。

地域リハビリテーションとは、「高齢の方も障がいのある方も、住み慣れた地域の中で自分らしく生きる、自分の権利を守って生きる」ことであり、地域リハビリテーションを幅広く普及していくためには、地域の実情に合ったネットワークづくり、普及・啓発が欠かせません。そのため、圏域ごとに「地域リハビリテーション支援センター」を設置し、医療・保健・福祉の関係者はもちろんのこと、本人、家族、ボランティアなど、地域のすべての人々によって支え合う仕組みを構築しようと活動しています。

「地域づくりしょいやの会」での事例紹介

先駆的な「事例検討会」

鳥取県中部圏域地域リハビリテーション支援センター（以下：中部圏域センター）である三朝温泉病院は、平成16年12月に鳥取県から指定を受け、17年度から本格的に活動を始動しました。リハビリに関する相談や質問を電話等で受ける「相談事業」、施設に出向いての技術指導やアドバイスを行う「現任指導」、そして「研修会開催」の3つの事業を進めてきました。

「地域づくりしょいやの会」で進行をつとめる山根さん。

そして18年度から、中部圏域センター独自の活動として、地域のケアマネジャー等からの相談を「事例検討会」の形で月1回のペースで開催するほか、翌年から倉吉市の自治公民館に出向いて「転倒予防教室」にも協力をするなど、先駆的に取り組んできました。

ネットワークづくりへの発展

20年度からは、医療・福祉の関係者間の研修事業や指導事業は無くなりましたが、「過去3年間培った地域とのつながりがあり、今でも研修・現任指導の依頼に対しては、極力意向に沿えるよう、当院職員で継続対応しています」と言うのは、中部圏域センターの中心的役割を担う三朝温泉病院リハビリテーション科長で理学療法士の山根隆治さんです。

社協からの研修・現任指導の依頼を受け、相談をするPTの山根さんとSTの荒尾かず子さん。

それまで技術指導メインの地域リハビリテーション推進事業でしたが、20年度から県の方針に従い『医療と福祉をつなぐネットワークづくり』を目的とした『まちづくり的地域リハビリテーション活動』へと転換。

医療機関同志の連携はもとより、医療と福祉の連携を図るため、地域で高齢者や障がい者支援の関係者が一堂に会し「めざすべき地域」を語り合い、地域づくりの戦略(企画)を練るために「意見交換会」を開催することになりました。

中部圏域センターの活動の中心メンバー

また、介護方法・福祉用具・住宅改修サービスの適正利用など「多職種合同勉強会」とともに、中部圏域センター独自の事業として取り組んできた「事例検討会」も、地域の困難事例を関係者間で検討するものとして盛り込まれています。

独自に開催していた事例検討会を、19年度から鳥取県介護支援専門員連絡協議会中部支部と共同で行い、20年1月に共催事業として立ち上げた『地域づくりしょいやの会』を2～3カ月に1回開催し、最近では地域の中でネットワークが構築される兆しが見えてきました。

この会は、前述の2団体と鳥取県中部福祉保健局のメンバーが戦略を練りながら、医療・福祉関係等の参加者を徐々に増やしながら、講演会、グループワークでのディスカッションなどを行っています。

第2回目の会には「まちづくり的地域リハビリテーション」の第一人者である兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター、リハビリテーション科医長の逢坂悟郎氏を招き、「鳥取県中部の医療と介護を良くする話」と題した講演会を開催しました。

その講演をもとに、医療・福祉に関わる『資源(人・物・活動)』の確認と問題点を洗い出し、またそれらをつなぐネットワークの課題について意見交換会を重ねています。

シリーズ 施設訪問 VOL.62

（社）鳥取県中部医師会立三朝温泉病院内

鳥取県中部圏域 地域リハビリテーション支援センター

互いに手応えを感じながら

意見交換会を重ねる中で、病院、中部圏域の医療・福祉の特に回復期から維持期における問題をいかに解決するかが浮き彫りになりました。「多職種が職場の垣根を超えて一堂に会してディスカッションをする機会が今まで無かったので、少しずつ『顔が見える関係づくり』が進み始めたと感じます」と、山根さんは手応えを感じています。

中部圏域センターが始めた事例検討会が、地域づくりという同じ目的に向かっていることを実感し、タイアップして「地域づくりしょいやの会」に発展させてきた介護支援専門員連絡協議会中部支部長の石村朋子さんも「顔が見える関係が出来てきました」と言います。しかし「ネットワークと言っても、すぐに構築できるものではありません。医療と福祉・介護等の連携の仕方をお互いの立場で話し合い、模索していかなければいけない」とも言います。

中部圏域センターの活動の強い支持・協力者となっている石村朋子さん。

そして「今春からは、絵に描いた餅ではなく、より具体的な活動に入る段階になります」と石村さん。今後は、会でアンケートを行い、キーマンを自薦他薦で集めます。次に、そのキーマンがもっと深く掘り下げた活動・戦略を練っていきます。そして、住民を巻き込んだ地域づくりシンポジウムを開催し、圏域の市長、町長へも働きかけていく計画です。

琴浦町社会福祉センターで行われた「元気!はつらつ教室」に山根さん（PT）とSTの荒尾かず子さんが赴いて指導。

「顔の見える関係」を追求

昨年暮れに開かれた第5回目の「地域づくりしょいやの会」は、倉吉未来中心セミナールームで開催され、中部圏域の医療・福祉・介護の関係者ら100名余りが集まりました。

その冒頭、中部圏域センター長の森尾泰夫三朝温泉病院長は「医療・福祉・介護の資源を結びつけ如何に利用するかが課題で、どんな資源があるのかが分かっただけではいけない。この会は、顔の見える関係となり、住みやすい地域をつくるために、中部の中で重要な会になっていくでしょう」と希望と期待を込めて挨拶をしました。

この地域リハビリテーションの確立には、カタチの無いところからつくり上げる難しさから、「すぐに結果が出るものではありません、これから2～3年後という長期目標を定め、地道にかつ確実に、顔が見えるネットワークと連携づくりに取り組んでいきたい」と、山根さんは思いを内に秘めます。

第5弾「地域づくりしょいやの会」で挨拶をする森尾三朝温泉病院長

[施設概要]

- ●所在地
  鳥取県東伯郡三朝町山田690
  三朝温泉病院内
- ●開設日
  平成16年12月鳥取県指定
- ●運営主体
  社団法人鳥取県中部医師会
- ●センター長
  森尾泰夫（三朝温泉病院院長）